



幼児期の思考力を育み 児童期につなぐための 手引き

2024年9月

バネッセ教育総合研究所





はじめに

子どもの「考える力」をもっと知りたい



異なる年齢の子どもたちが何やら熱心に外の様子を見ています。体を寄せ合いその場を共有する3人の姿はかわいらしく、微笑ましいものです。

「この子たちは、どんなことを“考えて”いるのだろうか？」

同じ方向を見ていても、その子たちが気になっていることや考えていることは違うかもしれません。

小さな子はお兄さんたちと一緒にいることが、安心できて心地よいのかもしれない。

静かに心を動かしている3人の様子を見た先生は、この場面では不用意に声をかけず見守ることにしました。

特別な場面ではない、何気ない生活や遊びの場面にも、子どもの「考える力」が様々なありそうです。

「考える力」を育むために、どんな関わりができるだろう

次のエピソードを見てみましょう。この時、子どもたちは自分たちで図鑑を見て、調べることを楽しんでいました。恐竜に興味をもった5歳の子どもたちは「名前があるのかな」と話をしています。

A児

ティラノサウルスの“歯”って30センチなんだって

保育者

へえ～そうなんだ。
ところで30センチって何のこと？

うーん…大きさ？

よく知っているね。ものさしならもっているけど、使う？

これでやるんだ！ うん、ちょっとかりるね

30センチ、わかった！ ここまで！
(目盛りを指す)

こんなに大きいの！？ ぼくの歯はこんな小さいのに！



ここでは、恐竜の歯の大きさを示す「30センチ」という言葉に触れたA児に、先生が物の大きさに注目するきっかけとして「センチって何のこと？」と声をかけ、ものさしの存在を知らせます。答えをすぐに教えずに子どもが実際の体験を通して「分かった」と思えることを大事にするためです。

ものさしで**実際の大きさを実感したA児は恐竜と自分の歯の大きさを比べて驚いています。**

この冊子では、このような何気ない場面に、どんな子どもの思考力の芽があるのかを、「思考スキル」の枠組みを用いて見ていきます。そうすることによって、ふだん保育者が無意識に行っている見とりや関わりについて、他の保育者や保護者、あるいは小学校の先生方が共に理解し、ひもとくきっかけにさせていただけたらと思います。



目次



はじめに	1
第1章 幼小接続期の思考力を見とり、育む	4
幼児期から育みたい思考力 思考力の芽生えをとらえる枠組みとして「思考スキル」を用いる	
第2章 思考力の見とりと援助	7
19の思考スキルと子どもの姿	
1 多面的にみる	
2 変化をとらえる	
3 順序立てる	
4 比較する	
5 分類する	
6 変換する	
7 関係づける	
8 関連づける	
9 理由づける	
10 見通す	
11 抽象化する	
12 焦点化する	
13 評価する	
14 構造化する	
15 推論する	
16 具体化する	
17 応用する	
18 広げてみる	
19 要約する	
第3章 活用事例の紹介	27
思考スキルの枠組みを保育にどう生かすか	
ア) 子どもの力を見とる観点にする	
イ) 保育計画に生かす観点にする	
ウ) 保育計画をふりかえる観点にする	
おわりに	31

私たち19の「思考スキルネコ」
も一緒にします！

